

渡辺復興大臣宮城県訪問ぶら下がり記者会見録
(令和元年9月8日(日) 15:01～15:07 於) 気仙沼市)

1. 発言要旨

本日は、本当に素晴らしい天気の下で、私は宮城県を訪問させていただきました。

まず、宮城県の南三陸町、そして、気仙沼市を訪問したところです。

南三陸町においては、福祉交流施設の「結の里」を訪問し、地域住民の方が企画された交流イベント、「結の青空レストラン」を視察したところです。また、地域の住民の皆様方とも交流いたしました。

また、気仙沼市では、南町紫神社前商店街を訪問し、商店街の復興状況をお伺いするとともに、内湾地区の整備状況を視察したところです。

そして、ここ「みらい造船」では、新工場の完成式典に出席し、安倍総理からお預かりしている祝辞を代読させていただきました。

造船業は気仙沼市の主要産業の一つであるとともに、東北沿岸部の基幹産業である水産業を支え、地域経済、雇用創出にも貢献する重要な産業です。

今回、被災した4つの造船会社に移転・機能集約し、「みらい造船」として新工場を完成させたことは、今後の地域経済の発展に大きく寄与するものと思われます。

今後とも、被災地のさらなる復興のため、引き続き必要な支援をしていく所存です。

私のほうからは以上です。

2. 質疑応答

(問) この工場完成に対する所感を改めていただいてもよろしいでしょうか。

(答) 私、この造船所の、4つが1つになったということ自体が大変素晴らしいことだと思っております。

そして、今回、このような形で新造船したものを進水する式典にお招きいただいたことは、私にとって大変印象深いものですが、これを多くの国民の皆様方にも知っていただき、気仙沼が大いに発展していく源になっていけばいいなと思っております。

(問) もう一点、この工場は、国の交付金で支援されていますが、改めて今後、気仙沼または宮城県への支援というのはこういった形で続けて行きたいというお考えでしょうか。

(答) 2020年度までが、いわゆる復興・創生期間です。それまでは最

大限の努力をしていきたいと思っております。

また、復興・創生期間後については、私どもは今、さまざまな要望や検討を進めている段階ですので、年内にその方向性を示していきたいと思っております。

(問) 間もなく内閣改造と言われているタイミングでの今回の視察でしたが、改めてこのタイミングに視察されたことの意義と、今後、内閣改造に向けて何か思うことがありましたら教えてください。

(答) 内閣改造があるということは、皆さん御案内のとおりですが、職を私が今いただいているわけですので、職がある以上、全力で復興について取り組んでいくのは当たり前です。

したがって、この時期にどうこうということではなく、復興大臣である以上は、いろいろなところの要望にしっかりと応えていくことが私の仕事だと思っております。

そしてまた、今後については全く不透明ですが、私自身は東北の復興、特に宮城や岩手、そして福島、この復興に対しては全力で取り組んでいきたいと思っております。

(問) 変わらずということですか。

(答) 思いは変わりません。

(問) 新工場を見られた率直な感想をお聞かせ願えますか。

(答) まず、この新工場は大変な御苦労があったと思います。4つのそれぞれの造船所が一つにまとまるということは、それ相応の努力をしないと大変難しいと思っておりますが、成し得たということに私自身も大変うれしく、今後大いに期待するところです。

(問) 復興という面におきましては、みらい造船に期待することは具体的にはどういうことでしょうか。

(答) 復興のシンボルだと私は思っております。それぞれの企業がまとまって一つになっていく、その一つになったネーミングそのものが、これからの未来を象徴していると思っております。これからの気仙沼の復興のまさにシンボル、それは宮城県の復興、さらには東北の復興につながるだろうと思っております。

今回の新しい技術としてシップリフトが採用されました。これは、国内で3番目です。一番目は私の地元である千葉県ですが、その後、沖縄県ということで、こちらで3例目ということですので、これを大いに宣伝していただきたいと思っております。

(以 上)